


# 慢性期病院の3次救急病院との連携



---

平成21年2月21日  
永生病院 飯田達能

目的:



## 救急病院のたらい回しで社会 問題になっている現状の改善

- 3次救急に入院後、加療にて慢性期病院で対応可能になった患者を、いち早く慢性期病院に転院していただく体制を構築することで、3次救急病院が満床のために救急対応出来ない状況を改善し、救急難民を減少させる。



# 平成20年6月救急医療との 連携に関する調査

- 「2次救急、3次救急から患者受入れの紹介があれば、出来るだけ受け入れたいと回答した病院が、回答病院317のうち、231(72.9%)にのぼり、積極的に連携を望んでいる病院が高率。
- この結果を受け、平成20年8月に全国の3次救急指定病院にも慢性期病院との連携に関する調査83.3%から「療養病床との連携システムに積極的に参加したい」との回答。



## 東京地区での3次救急病院との連携実績

)平成20年12月実績結果(東京地区)

- 連携紹介数9件、そのうち6件が転院(さらにそのうち3件は直接、3次救急から転院)
- 都立府中病院3次救急の件数:171名(平成19年12月144名で18%増加)



## 東京地区での3次救急病院との連携実績

)平成20年12月実績結果(東京地区)

- 早期に連携転院により、3次救急で更に  
対応可能になる予想件数: 1.49人

5.4日(平均在院日数) × 2(対象人数) - 2.75日  
(救命センター延べ滞在日数) = 8.05日(在院が短縮された効果延べ日数)

8.05日 ÷ 5.4日 = 1.49人(12月に新たに1.49人  
分の受入れ余力を発生させた)



## 東京地区での3次救急病院との連携実績

)平成21年1月実績結果(東京地区)

- 連携紹介件数7件、そのうち6件が転院  
(更にそのうち3件は直接、3次救急から転院)
- 早期に連携転院により、3次救急で可能になる  
予想件数:1.03人



## 大阪地区での3次救急病院との連携実績

- 平成20年12月より5つの3次救急病院と22の慢性期病院が連携し、コーディネーターを慢性期病院に1箇所設け、大阪地域を網羅して、連携開始している。

12月実績:

連携紹介件数8件のうち5件が転院



## 考察：

- 都立府中病院の3次救急対応患者件数は、大幅に増加した(前年比18%増加)。これは、3次救急の病床の回転が早まったことを伺わせる。
- 3次救急に携われる医師・看護師・医療相談員などの涙ぐましい努力が伺える。
- 今回、慢性期病院も早期に連携転院により、3次救急で更に対応可能になる予想件数：1.49人を生むことに貢献し、3次救急の病床の回転に貢献できた。
- 3次救急との連携は、全国へ広めていく必要がある。





# この連携システムを 全国に広めるための問題点は

---

慢性期病院の機能などの情報収集  
転院連携のコーディネーターをどこで担うか  
転院前の患者情報伝達  
転院前の病院見学を省くためのリスク  
慢性期病院での病床確保  
慢性期病院での医療の質向上

# この連携システムを 全国に広めるための提案

- 転院連携のコーディネーターは、地域特性により決め、慢性期病院の機能を十分把握し、患者情報を的確に紹介病院へ伝達する。
- 連携協力の慢性期病院を増やす。
- 患者・家族背景や経済状態に問題があり、未収金の発生やトラブルの発生リスクを抱えた状況での転院になる。そのため、転院に対しての診療報酬でのインセンティブを設ける。
- 慢性期病院での医療の質向上のために日本慢性期医療協会の認定講座受講、慢性期医療の臨床指票(老人の専門医療を考える会で作成中)を導入。